

# 貧酸素水塊速報 (2019年)

【発行】 ○ 千葉県水産総合研究センター  
 神奈川県水産技術センター  
 千葉県農林水産技術会議  
 内湾底びき網研究会連合会

【協力】 千葉県環境研究センター  
 第三管区海上保安本部  
 東京都環境局  
 (国)国立環境研究所

○ モニタリングポスト(海上保安庁, 国土交通省 関東地方整備局)  
 (今回の速報は“○”の機関の観測データを使用して作成しました)

## 令和元年8月5日観測結果

貧酸素水塊は、内湾から盤洲沖にかけての広範囲に分布しています(図1)。  
 縦断ラインの鉛直分布によると、川崎人工島付近の貧酸素水塊は、海底から10m以上の厚みがあります(図2)。規模は42.3%と今年最大です(図3)。  
 内湾北部の表層海水は高温低塩分となっており、湾奥部では赤潮が発生しています。

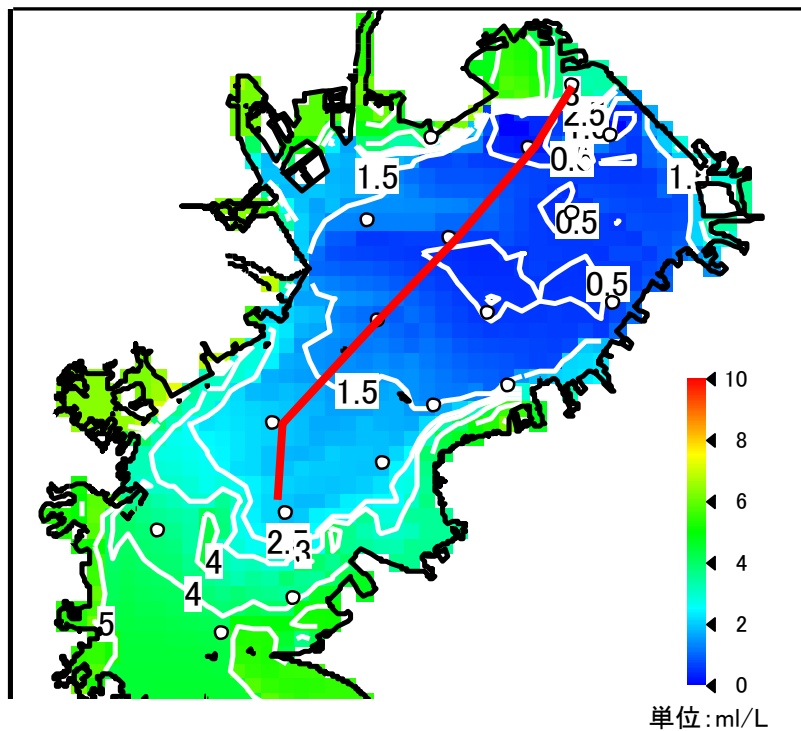


図1 底層の溶存酸素量分布(赤線は縦断ライン)

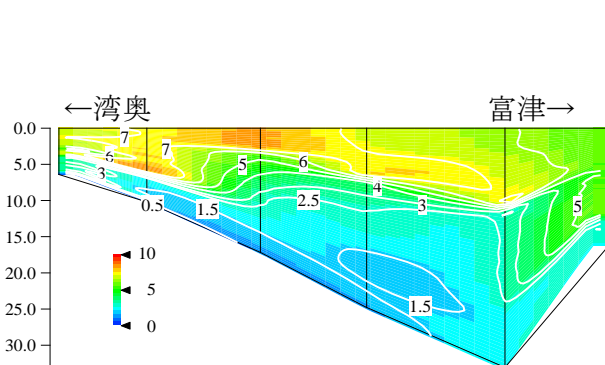


図2 縦断ラインでのDO鉛直分布

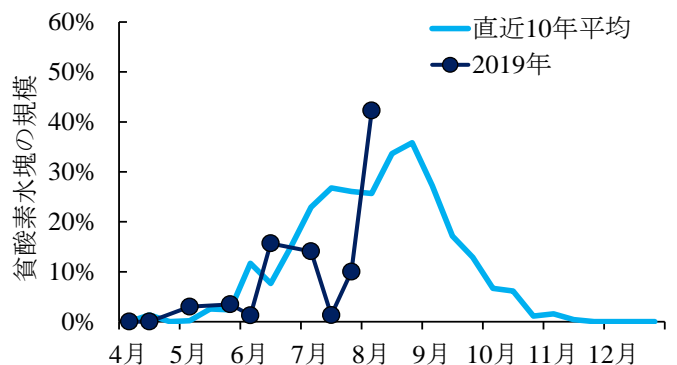


図3 貧酸素水塊の規模  
 (左図で貧酸素水塊(2.5ml/L以下)が占める割合)